

小規模多機能型居宅介護「サービス評価」総括表

法人名	社会福祉法人 泰斗福祉会	施設長 代表者	長谷川美音子	法人・ 事業所の 特徴	<法人の方針> ・私たちは、利用される方々の生活をスタッフが丸丸となって支え、共に笑顔のある毎日が送れるよう支援します。 ・私たちは、人が集まり、支え合い、開放感のある時間を共有して誰にも開かれた当たり前の生活を地域の皆様と共につくっていきます。 ・「風早に行けば何とかしてくれる」と思っていただけのようなサービスを提供します。 職員は、上記の理念を常に念頭に置き、行動します。
事業所名	小規模多機能 にじいろ	責任者 管理者	石佐喜智之 森健郎		

出席者	市町村職員	知見を有するもの	地域住民・地域団体	利用者	利用者家族	地域包括支援センター	近隣事業所	事業所職員	その他	合計
	2	2	3	1	1	1	0	4	0	14

項目	前回の改善計画	前回の改善計画に対する取組み・結果	意見	今回の改善計画
A. 事業所自己評価の確認	記録についての重要性を全職員に周知し日々の生活の様子を記録に残す。記録自体の書式、管理について見直し分かりやすく、すぐに提示できるよう改善していく。個別計画書の保管場所の確保や確認しやすい書式の取り入れ等を行い、職員が日常的に閲覧出来る環境を作り、利用者に適切な支援が出来るよう改善していく。	以前は、特定の職員のみが記録を担当していたが、現在は全職員が記録できている(パソコン入力による記録)日々の記録は「ケース記録」として日中の様子、利用者様の会話の様子を中心にその時不在だった職員にも周知され、毎日出勤時には必ず申し送りノートと一緒に目を通すように徹底できている。情報共有に関しては、日々の記録も随時更新し、最新の情報を共有できるようにし、朝礼後や少しでも空いた時間にミーティングを行なっている。	記録に関しては少しずつ改善がみられている。どう全体に周知情報共有するかが今後の課題ではないか。職員同士コミュニケーションを十分とって職員が余裕をもって仕事していく必要がある。	今後も記録に関しては継続して行い現場職員に周知・共有していけるようにしていきます。こまめにミーティングの時間をとり利用者様の情報共有だけでなく職員間の連携がとれるよう努めていきます。
B. 事業所のしつらえ・環境	①入り口から入っても迷わないよう案内板置いたり、分かりやすくなるよう工夫する。 ②外部からの来客者への挨拶や丁寧な対応を周知徹底する。 ③また接遇などの研修会へ積極的に参加を促して職員の質の向上を図る。	玄関前に本部(事務所)を移転したことで入った時の印象は明るくなった。外部からの来客時にも、すぐに対応が出来るようになった。入り口に看板を置き、事業所が分かりやすいようにした。	以前は出入りする時に誰もいないときがあつて困った時があつたが、今は事務所が出来て改善されている。自動ドアが施錠されているのは、認知症の利用者対策で仕方ないが、来訪者にきちんと説明する必要がある。	今後は来訪者に対して施設玄関自動ドアの施錠についての説明が全職員ができるようにします。にじいろの出入り口も事業所の活動・様子が分かるよう暖かい時期になれば開放します。②③に関しては継続して行います。
C. 事業所と地域のかかわり	カフェであつたり、カフェの隣のスペースを有効活用してイベントを提案・開催し、まずは少しでも多くの方に「にじいろ」「風早の家」を知ってもらおう。地域の行事や小学校、中学校などの行事に参加し、児童生徒保護者と車椅子の使い方など介護について関心理解を深めていただけるよう努力する。	在宅グループ会議「青空会」を立ち上げ、11月から介護や認知症についての相談や地域の憩いの場として、「いきいきカフェ」を毎月第3日曜13:00～16:00に開催している。現在までに3回実施し、延べ48人に来場いただいている。12月に小規模利用者様も参加された。参加者にご意見いただきながら、今後の取り組みに活かし、地域との関わりを広げていけるよう努力していきます。	地域の清掃は非常に助かっているし、近所を歩いてすれ違った時に職員から挨拶できているので、印象も良いし関わりも徐々に広がっていければよい。地域の行事に職員が参加できてないと個別評価にあつたが、職員が仕事に疲れて余裕がないので、職員間で意見交換し、少しずつ参加できれば。	家族様とのやりとりが直接できるように送迎には現場職員が対応します。「いきいきカフェ」を継続して地域の憩いの場として浸透し、地域とのつながりをひろげていきます。職員間で気持ちの余裕がもてるよう業務改善や意見交換等を行い協力体制を整えて地域との関わりがもてるようにします。

<p>D. 地域に出向いて本人の暮らしを支える取組み</p>	<p>利用者が地域でどのような生活をされてきたか、協力して下さる方などを細かに把握し、地域で幸せに過ごせるネットワーク作りをしてゆく。 その一助として、包括の社会資源を理解し資源マップを活用し自宅に戻っても安心して暮らせるようサービス提供していく。</p>	<p>地域の方々や包括支援センターからの情報を共有し、利用者の方や地域の方が困っていることや地域の取り組み・行事を理解して参加していくことが今後の課題である。 また地元(北条地区)職員からの情報や協力を強みにし、施設・事業所全体で支えていけるような体制づくりを目標としていく。</p>	<p>地域にどのような社会資源があるのか把握する必要がある。(北条地区にボランティアはどのような人材があるか) 利用者様がどう社会資源と関わっているか理解し支えていってほしい。 ボランティアセンターに問い合わせすれば助言できるのではないかと。</p>	<p>各職員が地域にどのような社会資源があるのか、ボランティアが存在しているのか理解できるよう職員会等で学ぶ。 ケアマネだけでなく現場職員も地域連絡会等の地域の会議に参加して全職員が地域の社会資源の理解を深めるのも一つの方法であり検討したい。</p>
<p>E. 運営推進会議を活かした取組み</p>	<p>①書面や口答伝達だけでなく、ほのぼの新開や活動の写真等で生活や活動風景を想像できるようなものにしていく。 ②開催場所を実際の利用者の過ごされている中で行い、紙面だけでなく生の様子も把握していただくことも検討中。</p>	<p>事業所の活動報告等で、写真を使っの報告は出来てきている。 今後、開催場所を各事業所で行ってみたり、毎回事業所を見学して意見交換の場を設ける。 行事に参加して雰囲気を感じてもらうのも一つの方法ではないかと考えており、検討していきたい。</p>	<p>外部評価で出た意見を運営推進会議に定期的に報告できたらよい。 運営推進会議の意見を今後反映されるように。</p>	<p>外部評価で出た意見をどう改善したか報告できるようにします。 運営推進会議で出た意見も事業所内で検討し改善できるようにしていきます。 ①②に関しては継続して行います。</p>
<p>F. 事業所の防災・災害対策</p>	<p>今後、消防訓練の日程が決まれば、事前に運営推進会議で情報提供し、地域の方も参加していただけるよう呼びかけ、協力体制を構築できるよう努力する。</p>	<p>防災・災害に関する情報共有は運営推進会議の場でだけでなく、適宜情報が入れば行っていく。 昨年6月に避難訓練を実施した際には地域の方にも参加いただいた。 今後も消防訓練が決まれば地域に呼びかけ参加していただき、いざという時に協力体制が取れるよう、日頃から連携を密にする。</p>	<p>小規模にじいりとして防災時の連絡体制を整える必要がある。 一番身近な地域住民と連携をとり、お互い協力できる体制づくりが必要。 すばき地区に防災士が3人おり、今後連絡体制をつくり協力をもらえばいい。 防災訓練の連絡を早めにもらえれば町内会長から地域住民に発信し、多くの方に参加してもらえるのではないかと。</p>	<p>防災時の地域(住民)も含めた連絡体制を整える。 緊急時に地域の方に協力を得られるように日頃から何かあった時はお互いが助け合える関係をつくり連携をはかる。 防災訓練が決まり次第、町内会長に連絡し地域住民が集える一つの場になれるようにします。</p>